**1章 緒言 ＜大見出し、14pt.程度＞**

1.1 原稿の書き方 ＜中見出し、12pt.程度＞

 本原稿では、学部4年生の「特別研究論文（卒業論文）」および修士2年生の「修士論文」の基本フォーマットを提示する。本文の作成は10.5pt. ＭＳ明朝（日本語）と10.5pt. Times New Roman（英語）を用い、原稿1ページあたり40文字×36行程度の一段組とする。節番号の付け方は、1.3章を参考のこと。ページ余白は、上: 35mm、下: 30mm、左右: 30mm程度が望ましい。図表は見やすさを心がけること。単位の記述には、SI単位系かそれに準じたものを用いる。また、各ページにページ番号を必ず記載すること。

1.2 論文構成

 論文は以下のような順序で構成されることが望ましい。

＜特別研究論文＞

 表紙（資料B2参照）

 要旨（資料B3参照）＜要旨集用としてもう一部提出すること。＞

 目次

 本文（本資料参照）

 謝辞

 参考文献

 付録

＜修士論文＞

　（ファイル表紙） （ファイルの表紙には，教務課で配布されるタックシールを貼ること。）

 表紙（資料M2参照）

 要旨（資料M3参照）＜要旨集用としてもう一部提出すること。＞

 英語要旨（資料M4参照）＜150-200 wordsとすること。＞

 目次

 本文（本資料参照）

 謝辞

 参考文献

 付録

注） 特別研究論文、修士論文ともに、要旨集用として提出するものはモノクロコピーをしても鮮明に映るように作成すること。

1.3 節番号の付け方

 本文中の小段落は、以下のように設定するのが望ましい。

1.3.1 ○○○ ＜小見出し、10.5pt. 程度＞

(1) △△△

(a) ×××

(i) □□□

 また、図、表番号は、図1.1-1、もしくは、Fig. 1.1-1のように、節ごとの通し番号とすることが望ましい。

1.4 参考文献の書き方

 他人の報告やデータなどを引用するときには、必ずその出所を「参考文献」として明示しなければならない。以下に、参考文献の書き方を例示する。

* 本文中の引用箇所には、右肩に小括弧を付け、通し番号を記入する。

 ＜例＞ 山田、田中ら[1-3]によると、

* 文献は、本文末尾の「参考文献」の章において、番号順にまとめて書く。
* 文献の書き方は原則として次の形式に従う。

［雑誌の場合］

 著者名，論文の表題，雑誌名，巻数，号数（発行年）ページ．

【例】

1. 山田太郎，田中花子，新しい表面処理に関する基礎的研究，日本機械学会論文集A編，Vol. 100, No. 200 (2003) pp. 120-130.

［書籍の場合］

 著（編）者名，書名，巻，発行所（発行年）ページ．

【例】

1. 山田太郎，表面処理入門，理工社 (2000) pp. 1-20.

1.5 質問

 本原稿のデジタルフォーマットは、<http://young.mecsys.ryukoku.ac.jp/> からダウンロードできるようになっているので利用してほしい（ただし、MS-Word版のみ）。また、質問がある場合は、mechrobo\_info@rins.ryukoku.ac.jp まで問い合わせること。